

磐梯山の火山活動解説資料（令和元年8月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～8、図9-①）

26日から28日かけて実施した現地調査では、沼ノ平及び山体北側火口壁噴気地帯の地熱域及び噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは80m以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平周辺に噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図9-②～⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図10～12、図14）

26日から28日にかけて実施したGNSS繰り返し観測及びGNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況
（8月12日）

- ・ 剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。
- ・ 山体北側火口壁の噴気の高さは80m以下で、噴気活動は低調に経過しました。



図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況
（8月13日）

- ・ 櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年9月分）は令和元年10月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

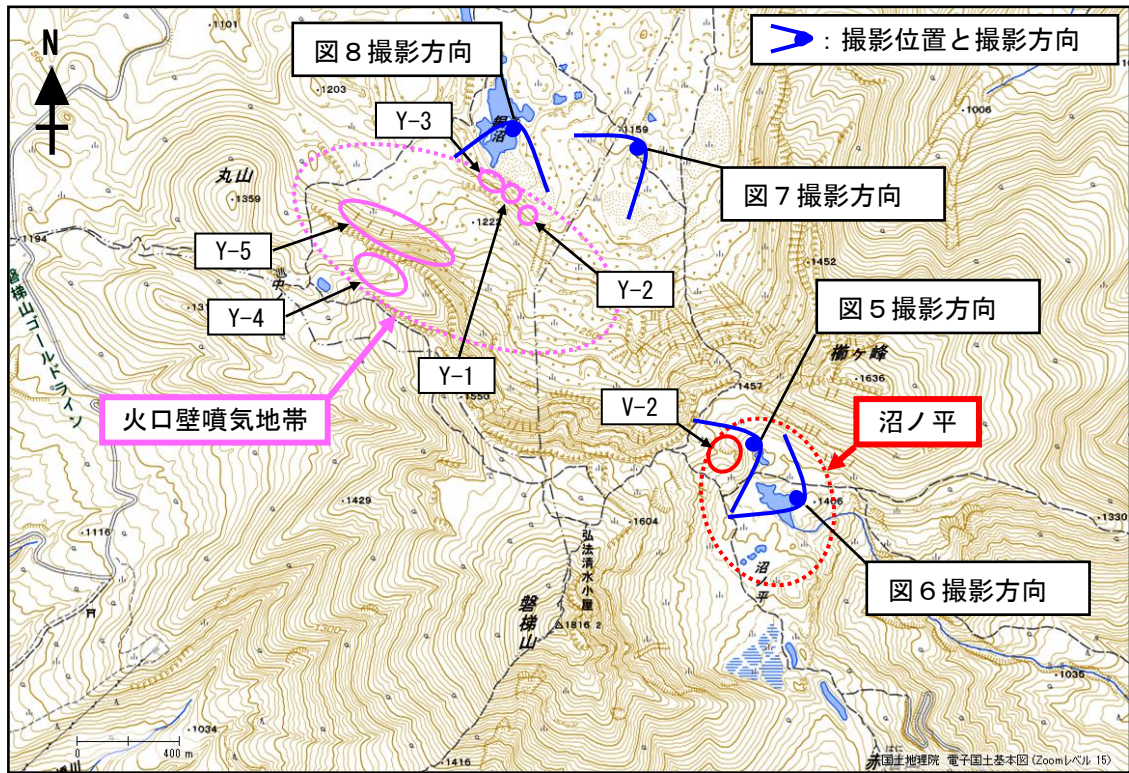


図3 磐梯山 噴気地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

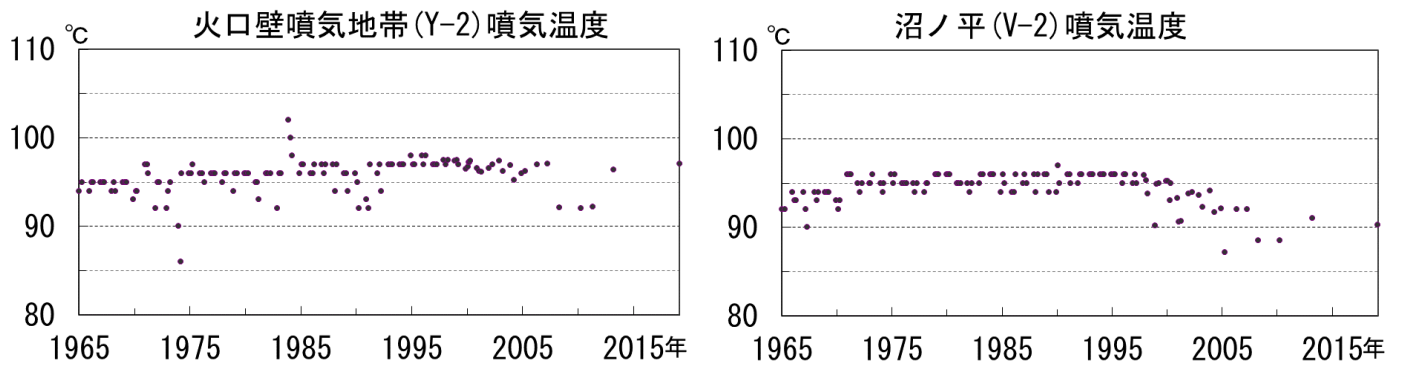


図4 磐梯山 火口壁噴気地帯 (Y-2) と沼ノ平 (V-2) の噴気温度変化 (1965年7月～2019年8月)

- ・ 噴気温度に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 噴気温度は、複数の噴気孔を観測した中の最高値を示しています。

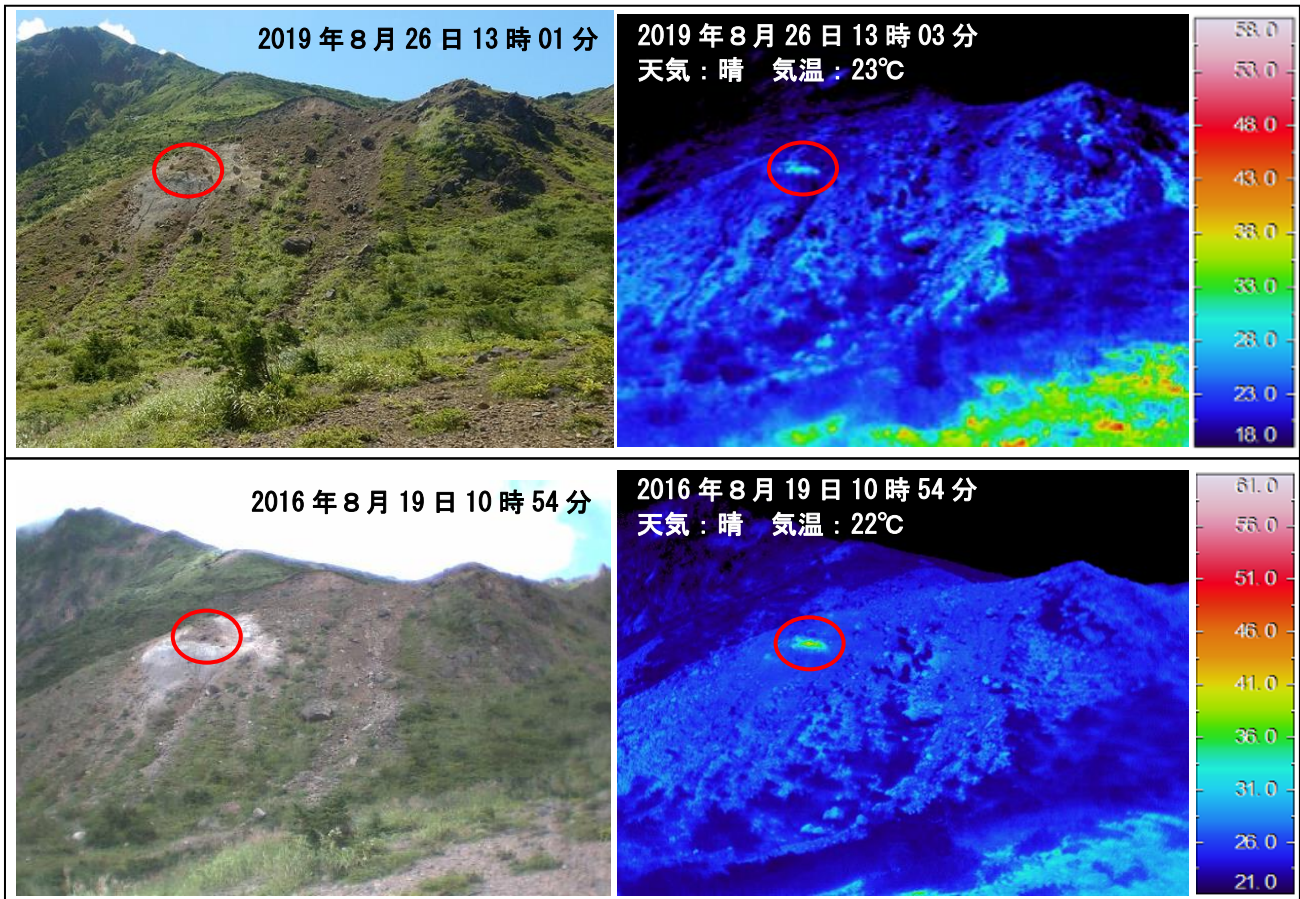


図5 磐梯山 沼ノ平（V-2）の状況（左）と地表面温度分布（右）
 ・地熱域の状況（赤丸）に特段の変化は認められませんでした。
 ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

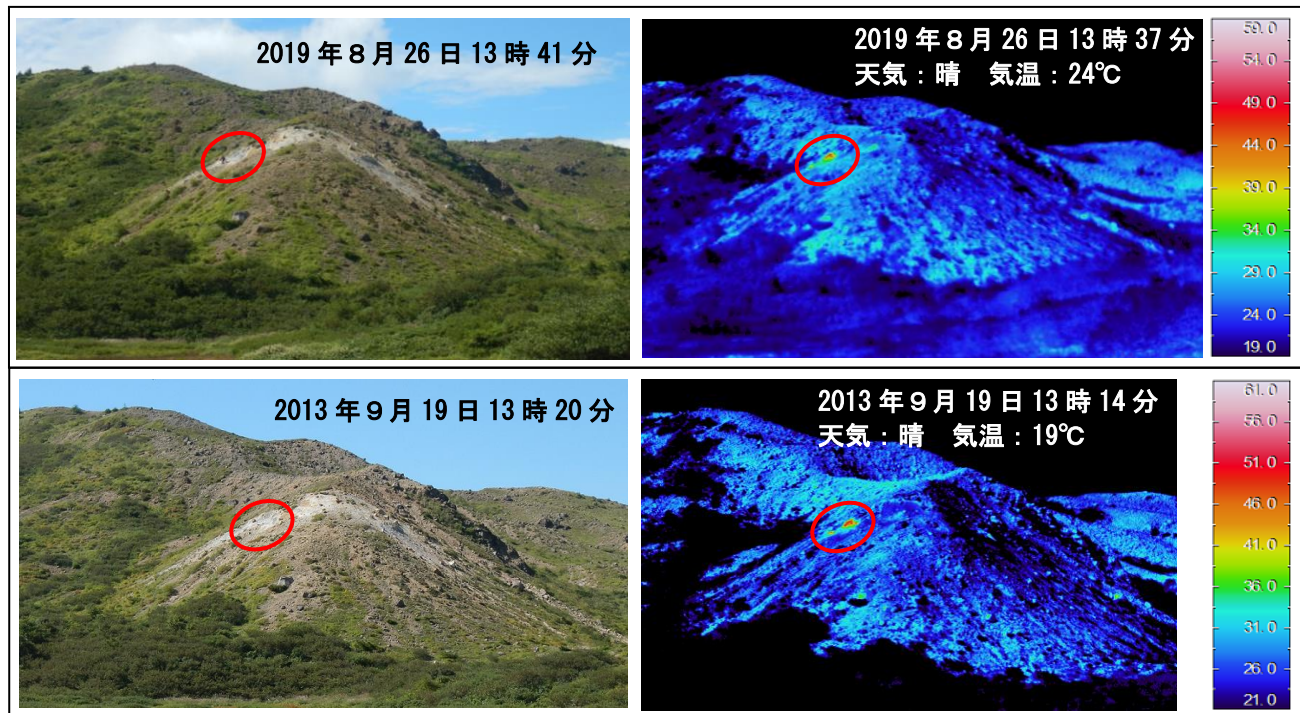


図6 磐梯山 沼ノ平（V-2）の状況（左）と地表面温度分布（右）
 ・地熱域の状況（赤丸）に特段の変化は認められませんでした。
 ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

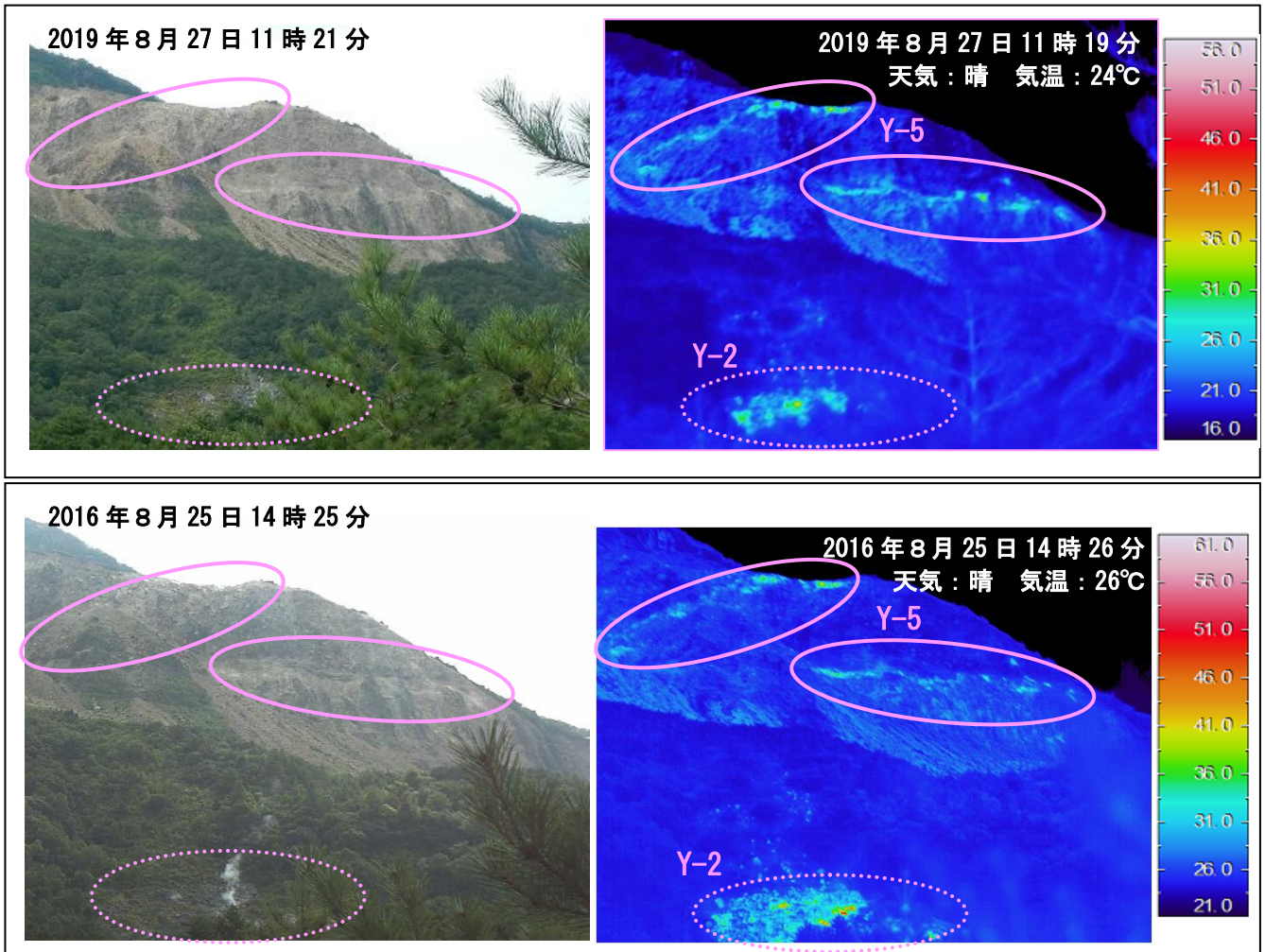


図7 磐梯山 火口壁噴気地帯（Y-2、Y-5）の状況（左）と地表面温度分布（右）

- ・火口壁噴気地帯（Y-5）の地熱域の状況（桃丸）に特段の変化は認められませんでした。
 - ・撮影位置と地熱域の間の草木の影響で、地熱域の一部が見えなくなっています。
- ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。



図8 磐梯山 火口壁噴気地帯（Y-1、Y-3）の状況

- ・火口壁噴気地帯（Y-1、Y-3）の噴気の状態に特段の変化は認められませんでした（桃丸）。

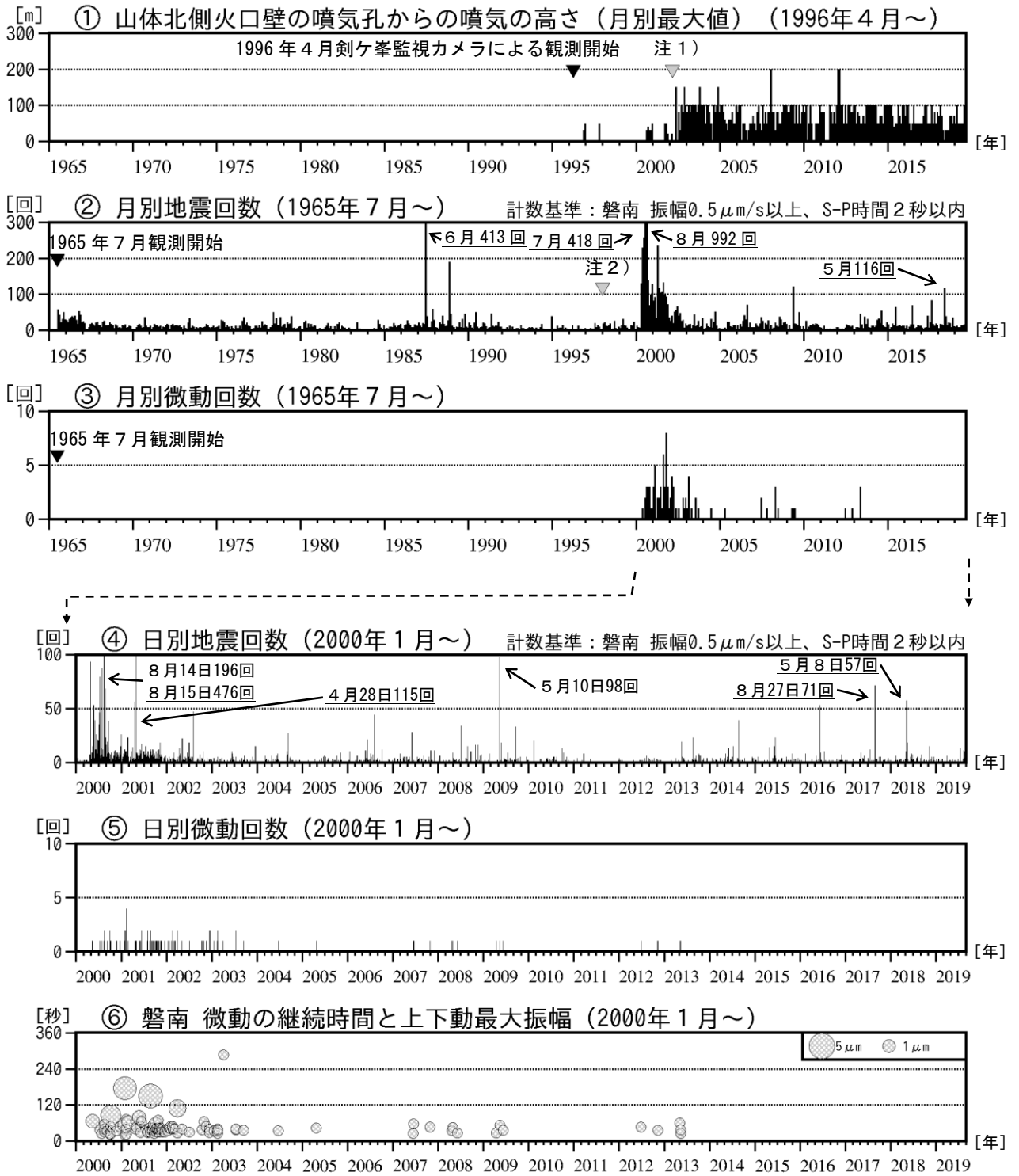


図9 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2019年8月）

注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

注2) 1998年より計数基準をS-P時間5秒以内からS-P時間2秒以内に変更しました。

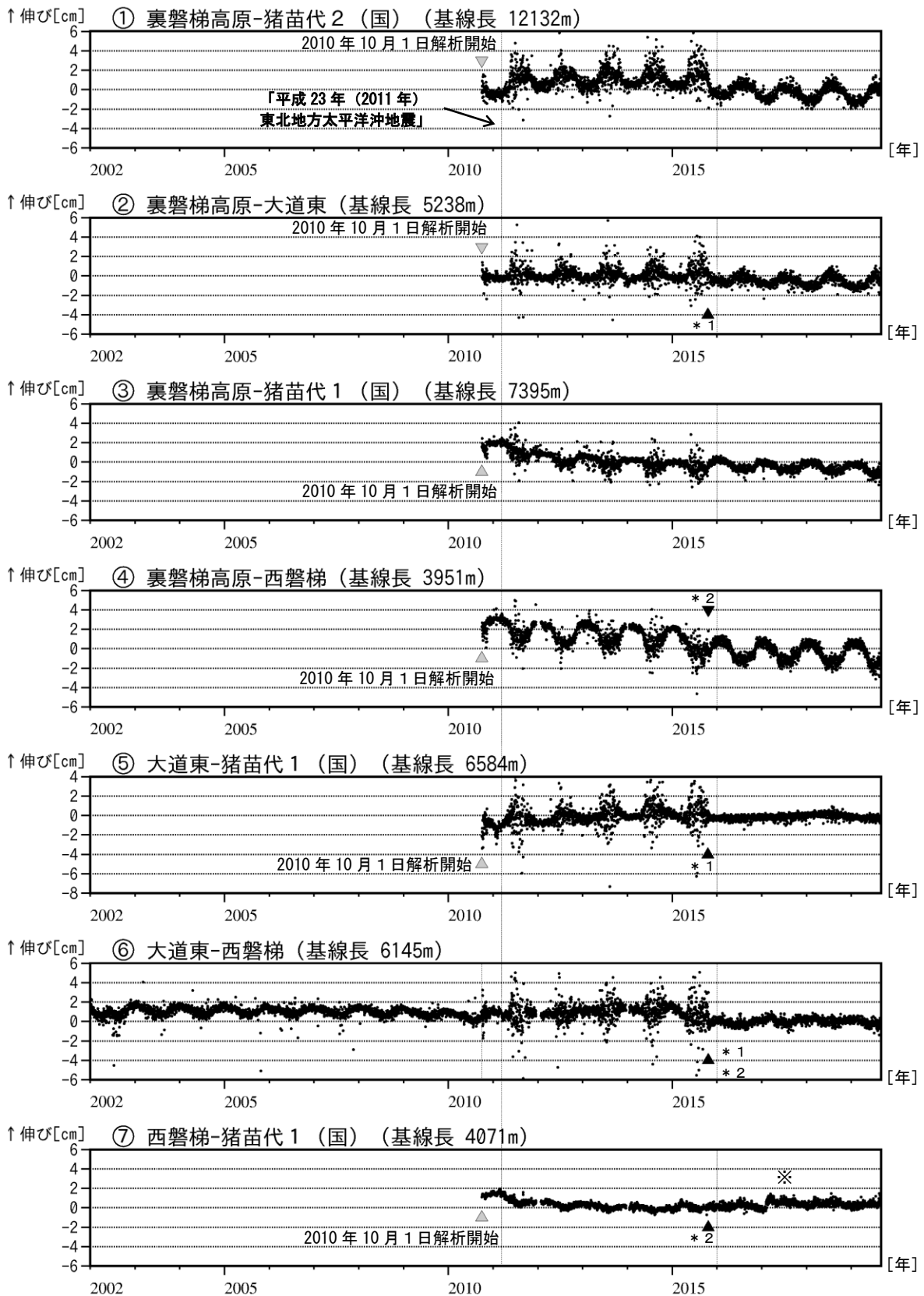


図10 磐梯山 GNSS 基線長変化図（2002年1月～2019年8月）

- ・ 2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・ 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～⑦は図14のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ (国)は国土地理院の観測点を示します。
- ・ * 1：大道東観測点の機器更新及び移設を行いました。* 2：西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- ※西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。



図 11 磐梯山 GNSSS 繰り返し観測点配置図

・①～④は図 12 の GNSSS 基線①～④に対応しています。

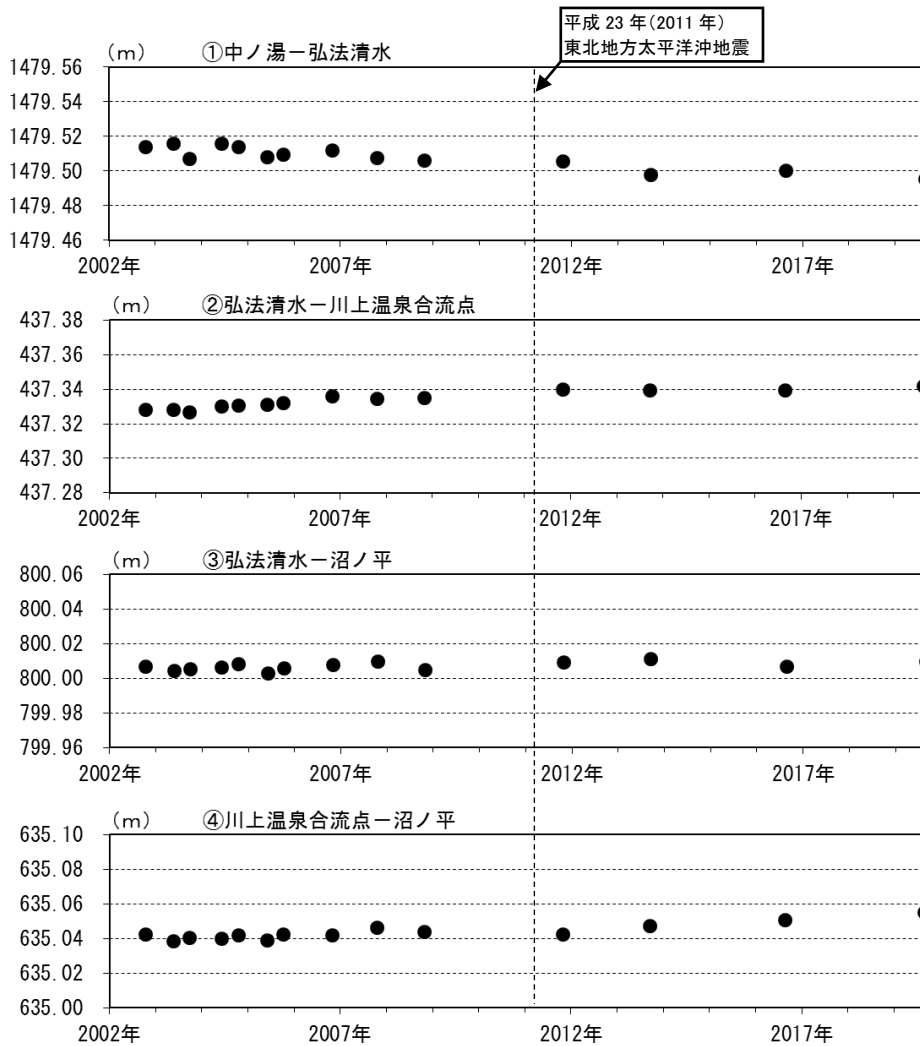


図 12 磐梯山 GNSSS 繰り返し観測による基線長変化図（2002 年 10 月～2019 年 8 月）

- ・基線番号①～④は図 11 の GNSSS 基線①～④に対応しています。
- ・26 日から 28 日にかけて実施した観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。

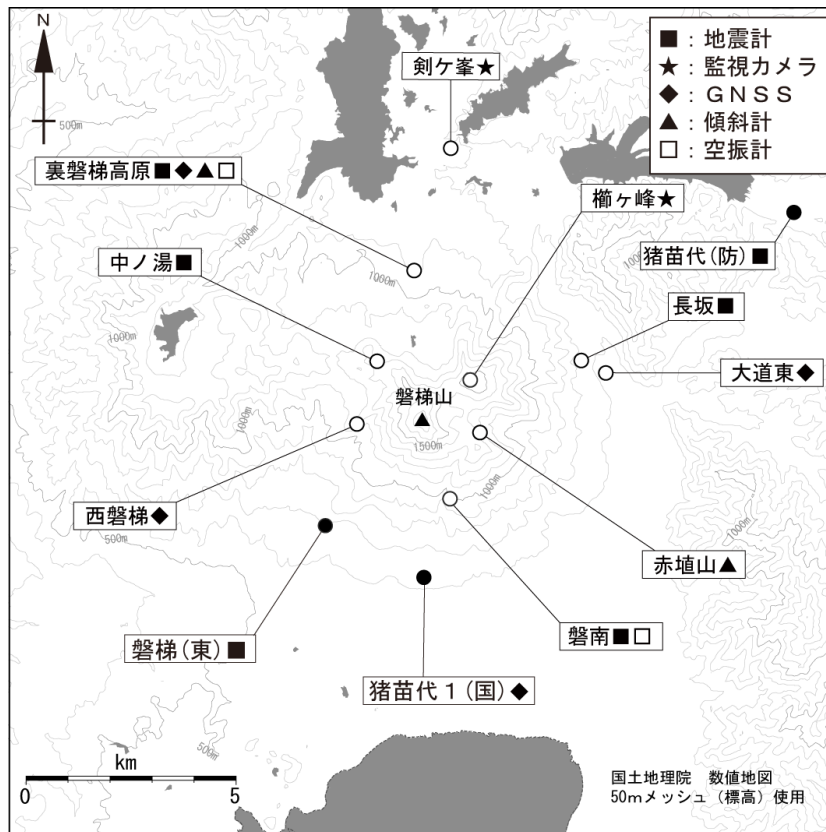


図13 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

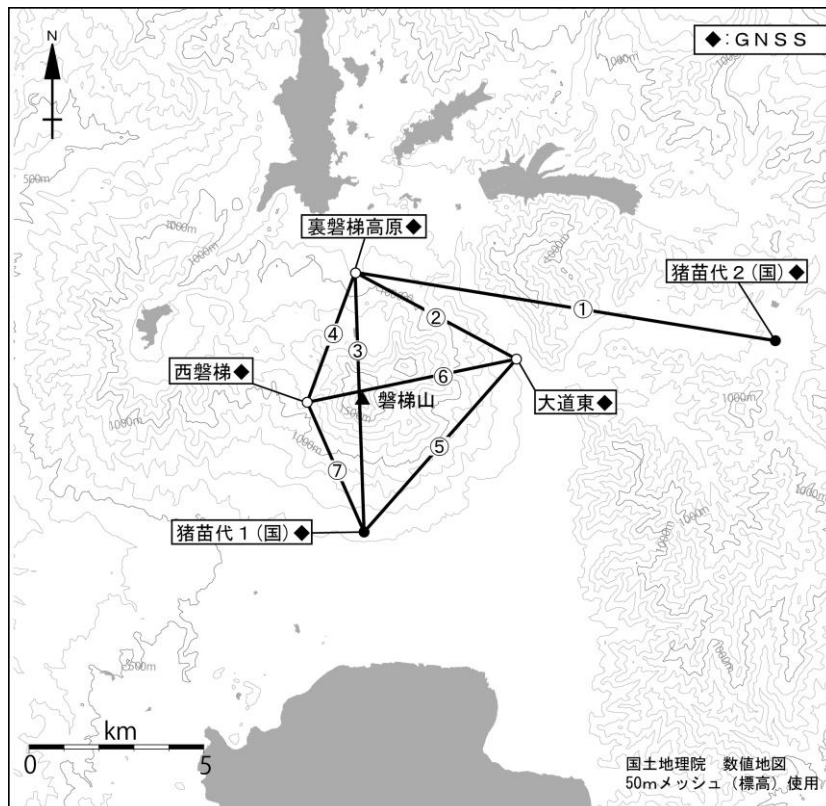


図14 磐梯山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院